



会長挨拶

横浜市立大学後援会会長 **馬場 彰**



会員の皆様におかれましては、日頃より後援会活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。

私どもの後援会は、教育研究活動への補助、課外活動及び福利厚生事業に対する助成、国際交流に対する支援、就職や資格取得への助成、キャンパスの環境改善などに取り組んでいます。在学中の充実したキャンパスライフだけでなく、卒業後のキャリア支援までを見据えて、学生一人ひとりが横浜市立大学で喜びと誇りを持って学習できるよう支援することが後援会の活動目的です。この冊子で取組の一部を紹介しておりますのでご覧いただければ幸いです。

さて、今年の10月から新理科館の建設工事を契機に、八景キャンパス内の耐震整備事業が開始されますが、この事業の中で附属校舎の建て替えも行われるなどキャンパスの環境改善も大いに進むものと期待しています。環境改善の面でも後援会としてできることから取組を進めてまいりたいと考えています。

今後も後援会の運営にあたっては、理事・監事の皆様、さらに大学の関係者の皆様のご協力を得ながら後援会活動の更なる充実発展を目指してまいりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。



ご挨拶

横浜市立大学長 布施 勉

馬場会長を始め後援会の会員の皆様には、本学に対して様々なご支援をいただき、心から感謝しております。

さて、我が国の近現代史の中で最大の自然災害は、3.11東日本大震災だと言えるのではないのでしょうか。あの震災の結果、どのような社会的影響が生じるのか、具体的には「大学の教育・研究にどのような影響が出るのか・・・」、大変気になります。あの震災によって、日本人の価値観とか基本認識が大きく変わってくるのではないかと、そういう兆候が既に出ていると思っているからです。

学生あるいは日本人が持ってしまった「ある種の大きな意識変化」を勘定に入れないで、従来どおりの教育や研究を漫然と続けて行って良いのか・・・、考え込んでしまいます。今後、どのように「新たな大学改革」を進めるべきか、また一つ重い課題を背負うことになりました。

この問題に真剣に対処することを怠ると、ある日、自分達がやっている「教育・研究」という業務が陳腐なものになってしまう可能性も、大いにあると思っています。そうならないためには、「原点」に立ち返って、じっくりと腰を据えて、対処して行く必要があると覚悟しております。

今後とも、皆様には、引き続き本学に対するご支援をいただきますよう、お願い申し上げます。

学生は勉強しない？一単位の実質化と主体的学修

後援会常務理事
(国際総合科学部長)

岡田 公夫



高校受験、大学受験（なかには幼稚園から受験を続けている人もいるかもしれませんが）、大学の入試に合格してこれでようやく遊べる... 大学がレジャーランドと呼ばれたりしていた時期にはそんなことを思う人もいたのかもしれませんが。いずれにせよ「勉強が好き」という人はいつでも少数派ではないかと思えます。

昨今「日本の大学生は勉強しない」ということがいよいよ問題とされ、文部科学省の諮問機関である中央教育審議会も「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」という答申を出し、その中で「学士課程教育の現状と学修時間」という章を立てて、「我が国の大学生の学修時間が諸外国の学生と比べて著しく短いという現実」の認識から改善を求めています（http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm）。

大学設置基準では、大学の授業の1単位は45時間の学修量で認定されることになっています。大学のふつうの講義科目は1コマ90分の授業が半期15回で2単位ですから、この科目の単位を取得するには90時間（6時間×15回）分の学修、つまり90分を2時間と見立てても1回の授業にさらに4時間の授業外での勉強が必要ということになります。この関係をふつう、ある科目の単位を取るにはその授業の倍の時間の予習復習が必要、というような言い方で説明します。単位取得に見合った学修がなされるようにする、これが「単位の実質化」です。日本の大学生全体から見れば市大の学生はまだ勉強しているほうだと思いますが、それでも毎学期実施される授業評価アンケートで「授業時間以外にこの科目の学習を一週間に平均どのくらいしましたか」という項目が際立って低い値になります。

この「1単位＝45時間の学修」という大学設置基準は、実は保護者のみなさんが大学生だったころにもあった規定なのです。昔はのどかだった、と言ってしまうまでもありますが、それがここへ来て執拗に議論されている。大学や高等教育に対する期待（不満の裏返し？）が大きいということだと思います。

学修時間を確保するために、国際総合科学部では1学期に登録できる授業時間数を制限しています（これをCAP制と言います）。学生は1学期に24単位までしか履修登録できないことになっています。しかし、それでも24単位履修した場合、学生は週に72時間（授業時間を含む）勉強しなくてはならないわけで、土日でも勉強したとしても1日10時間という計算になります。非現実的な値です。サークル活動やバイトに追われている学生にはそれだけの勉強時間は残っていません。でも、これくらいの上限設定のおかげで、まじめな学生はおおかたの単位を3年間で取り終えて、就職活動や卒論に時間をあてることができます。

この話のポイントのひとつは、大学の授業は高校までのように時間割りが埋まっているのではなく、1日に2コマ程度がちょうどよく、空いた時間には図書館などで勉強する、というようなことが望ましいということです（少なくとも文部科学省的には）。ただ、授業を減らして学生のバイトの時間が増えるだけでは意味がありません。どうやって勉強させるか。先生が宿題をたくさん出せばいい？さまざまな事情があって実際にはそう簡単にはいきません。決め手は学生の課題意識です。去年のNews Letterの市大の「教養教育のみどりの球」と「教養の核」をおぼえておられるでしょうか（後援会のホームページでバックナンバーをご覧になれます：<http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/kouenkai/backnumber/NEWSLETTER2011.pdf>）。横浜市大の教養教育は、ただいろいろな科目を学生に提示する「幅広い教養」ではなく、学生が課題意識を持ち、独自に勉強していく力をつけることに主眼を置いています。与えられた宿題をこなす学習ではなく、課題解決を目指して主体的に勉強する。それに向けて学部も、GPAの導入や科目のナンバリング（2013年4月から導入予定）など、絶えず教育の改革に取り組んでいます。世界に通用するグローバル人材の養成など、後援会の支援が市大の教育改革の大きな支えになっています。感謝とともにますます努力してまいります。

◆ 横浜市立大学 学部・大学院教育の特色 ◆

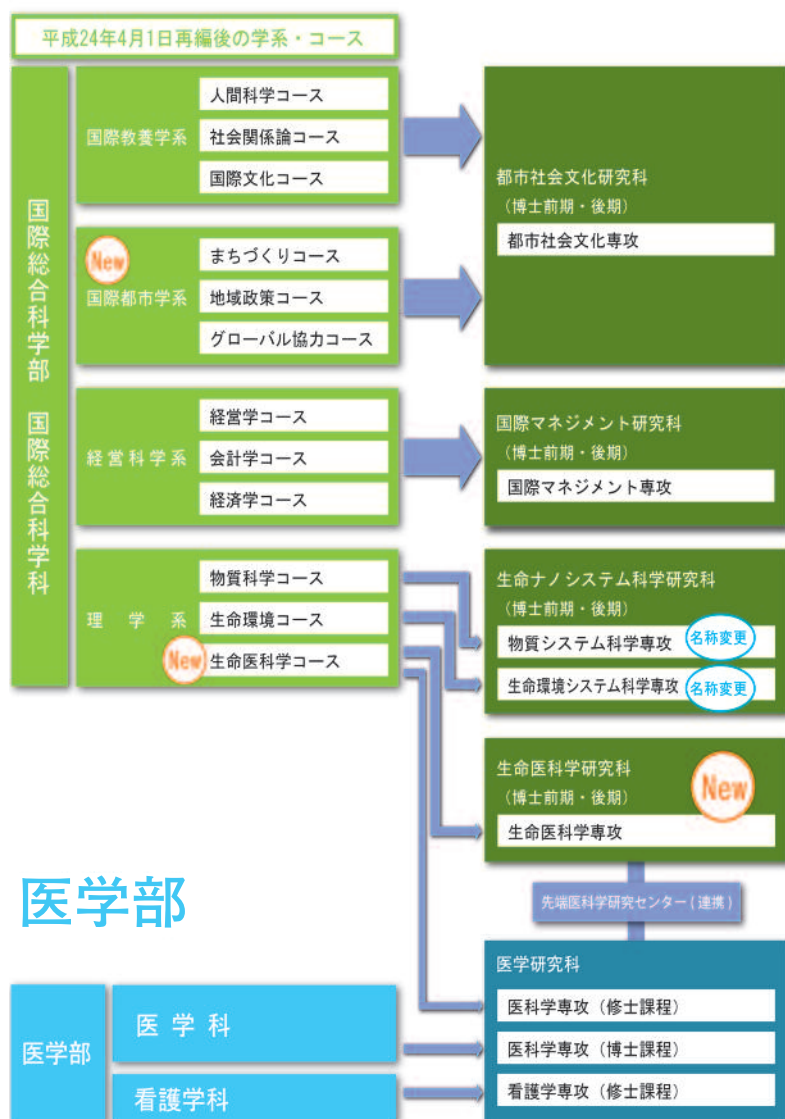
<国際総合科学部>

国際総合科学部は、世の中の動きや社会のニーズに柔軟に対応するため、平成24年度から4学系12コースに再編されました。教育体制をより明確にし専門性を深める領域横断的な学部構成となっています。

学生は2年次進級時にコース選択を行います。一定の条件を満たすことにより入試区分以外のコースに進級することも可能です。また、学部4年次に大学院科目を履修することで博士前期課程を1年間で修了できる「学部・大学院5年修了プログラム」がスタートします。

1年次の教養ゼミから4年次の卒業論文まで、少人数双方向教育を基本にしたきめ細やかな指導を行い、グローバルな視点を持ちながら創造性と倫理観を備えた人材が育つ学部を目指します。

国際総合科学部



医学部

<医学部>

医学科では、平成24年度から2つの附属病院と連携した医学教育センターを発足させ、医学教育の質の向上に向けて担任制の充実など様々な取り組みを行っています。

看護学科では、1期生から4年連続で国家資格100%の合格を達成しています。教員一丸となってきめ細かい学生支援などを行っている成果が表れています。

横浜市、神奈川県地域医療に責任を持つ医療従事者の育成を使命とする大学として、高度な専門知識と技術を兼ね備え、豊かな人間性や倫理観を持つ人材を育成します。

<大学院>

本学では、学部の学びと深く結びつき、より高度な研究や専門性を追求できる大学院を設置しています。平成25年度は、学部理学系3コースでの学習をさらに発展させるため「生命ナノシステム科学研究科」を再編し、「生体超分子システム科学専攻」を母体に医学系教員を加え、発展させ「生命医科学研究科」を設置します。

ゼミ合宿

国際総合科学部 藤野ゼミ 2年 田中 秀和



「なんたる荒療治か」この言葉が今回のゼミ合宿を的確に表現できると思う。四泊五日の期間の中で用意されたテキスト一冊と計量経済学に必要な技術一通りを必死になって詰め込んだ。夕刻から始まる演習は日付が変わってもまだなお終わることなく、ゼミ生は早朝までタスクをこなした。翌朝から正午までは前日のタスクの成果の発表を、午後にはテキストの輪読の発表をするなど、ほとんど気の休まる時間はなかった。

このゼミ合宿は三つの意義があったと思える。一つは計量経済学で必要な手法を一気に学ぶ点、二つ目はゼミ生同士の縦の繋がりを育む点、三つ目は自己の未熟さを体感する点である。「なんたる荒療治か」との言葉通り、短い期間ではあまりにも多い学習内容であった。しかし、当初解らなかったことはゼミ合宿後の勉強で徐々に理解できるようになった。短期間に網羅し、理解の及んでないところはピンポイントで学習するという方法は効果があった。このように多くのタスクを終わらせられた要因は「親子制度」である。三年生と二年生がペアになって課題をこなしていく中で、お互いに打ち解けることができた。横の繋がりと縦の繋がりのおかげで、ゼミ合宿後の関係も良好である。しかし何もかもが順調ということはなく、自己の未熟さを思い知らされた。ゼミ合宿前に勉強したことも当日は忘れ、「親」から教わったことも思うように表現できなかった。自己の能力不足はもちろんだが、この行事に懸ける情熱にも不足があったように思えた。ここで生まれた感情は今現在でも心の中に残っており、活力の推進源になっている。

このような貴重な経験を提供してくれた藤野先生や大学後援会の皆様に感謝致します。

学びやすい環境



「学術情報センター（図書館）」では、学生の学習・研究にかかわる様々な情報やサービスを提供しています。約65万冊の図書、1万タイトルを超える雑誌、約1万5千タイトルの電子ジャーナルが利用できます。

授業期間中の平日は22時まで、土日も19時まで開館しており、授業後や休日にも多くの学生が学習・研究しています。館内には、400席を超える閲覧席のほか、情報探索やレポート作成に利用できるパソコンやグループ学習に活用できるスペースを備え、学生の様々な学習スタイル

をサポートしています。

学習サポートの一環として、図書館職員による学習・研究に沿ったアドバイス（レファレンスサービス）のほか、図書館の活用法を身に付けた学生ライブラリストップによる相談も受け付けています。また、学生ライブラリストップは新入生向けの図書館案内や、図書館の広報誌・利用案内の作成、企画展示等にも取り組み、学生の視点を取り入れ、図書館をより学生にとって過ごしやすい空間とするための活動を行っています。

平成23年度には、卒業生利用制度もスタートし、多くの卒業生にも利用されています。

♣ 後援会からの図書寄贈 ♣

後援会から毎年多くのご支援をいただき、学習・研究環境が一層充実しています。

平成23年度には、毎年ご寄贈いただく教養・学習用図書の他に有志の学生による「学生選書」を行い、より学生の希望を反映させた図書をご寄贈いただきました。「学生選書」による寄贈図書は、館内で3月～4月に展示が行われ、学生から好評を得ました。寄贈図書の中でも学生の日常生活に役立つ、学習方法や、留学、就職活動に



関する図書は、学生が多く利用するスペースに並べています。『大学生からはじめるキャリアデザイン』や『はじめてのインターンシップ：仕事について考えはじめたあなたへ』など、多くの資料が頻繁に利用されており、学生の学習・研究に大いに役立っています。

また、館内設備についても、個人用学生デスクや学生用パソコン、グループ学習室用のプロジェクターなどをご寄贈いただき、学生の様々な学習スタイルに合わせて、活用されています。



学生表彰

◆ 学長賞・学長奨励賞 ◆

横浜市立大学では本学の名譽を高め、校内の士氣高揚に貢献する活動を行った学生および団体に対して、「学長賞・学長奨励賞」として表彰を行っています。課外活動をはじめとして、学術、芸術、社会貢献およびスポーツ・文化活動において

優れた業績を上げた学生の功勞を称えることで学生活動の活性化に貢献しています。後援会からは副賞をお渡ししています。

平成23年度の学長奨励賞は、カーボンナノウォール (CNW) の燃料電池電極への応用において特許出願、国際会議口頭発表、学術論文掲載などの業績を上げた申錫澈さん（シンソクチョルさん）をはじめ、浅見祐也さん、田中真紀子さん、大河内恵美さんら、様々な活動の業績が認められた4名を表彰。団体では、第54回東日本医科学生体育大会のヨット部門で優勝した医学部ヨット部、第8回神奈川産学チャレンジプログラムにおいて最優秀賞を受賞した「小山チーム」、第51回日本学生経済ゼミナール関東部会中央大学インナー大会において最優秀賞を受賞した「藤崎ゼミナールあすばらくらぶ」、平成23年度横浜環境行動賞を受賞した環境ボランティア Step Up ↑ の4団体を表彰しました。

なお、平成23年度は学長賞の該当はありませんでした。

♣ 伊藤雅俊奨学金奨学生・成績優秀者特待生表彰式 ♣



本制度は学業・人物ともに優秀な学部生に対し、学業への一層の努力を奨励するとともに、本学学生の学習意欲の向上につながることを期待しています。

今年度は平成24年9月24日(月)、八景キャンパス大会議室において、平成24年度伊藤雅俊奨学金奨学生ならびに成績優秀者特待生の表彰式を執り行いました。

また、式典後は後援会の助成により懇親会を開催。学生・教職員・保護者が懇親を深める良い機会となりました。

学生生活のサポート

◆ 経済支援

経済的理由により修学の継続が困難な学生に対しては、家計基準や学業成績を審査のうえ、経済困窮度の高い学生から順に授業料の減免を行っています。

平成24年度からは、過年度の成績が不振であった学生に対しても、当該年度の単位取得状況次第で減免を認める「軌道修正型授業料減免制度」を導入し、学業奨励に結び付けた経済支援を行っています。

また、日本学生支援機構をはじめとする様々な奨学金の案内、手続きのサポートを行っています。

♣ 健康管理

「保健管理センター」は学生・教職員が心身ともに健康で充実した生活を送ることができるよう支援しています。健康診断をはじめ、内科、精神科医師による健康相談、ケガや軽い病気の応急処置を行うほか、必要に応じて病院の紹介などを行っています。また、すべてのキャンパスでメンタルヘルス相談、さまざまな悩み事（学業、対人関係、将来のこと、友人についての心配事など）に関する相談に対応しています。

横浜市立大学では多くの学生が各自の興味や意欲に応じて、部活動やサークルなどの学生団体に所属し、日々積極的に活動しています。部活動は「学生自治中央委員会」の傘下に所属し、学生自治のもと自主的な運営を行っています。それら学生自治団体と大学は定期的にミーティングの場を設ける等、情報交換を行いながら活動をサポートしています。

第62回 浜大祭 11/2(金)～4(日)



私たち浜大祭実行委員会は、浜大祭に来てくださった全ての方々に楽しんでいただけるよう日々試行錯誤しながら活動しています。

今年度は「Let's JOY'in!!」というテーマを掲げました。祭は「日常から非日常へ」連れ出す不思議な力をもっています。私たちの創り上げる“祭”に、より多くの人々に参加(join)してもらい、そして祭に関わった全ての人々が楽しむ(JOY)ことのできる瞬間を創り上げたい、という願いを込めました。Miss YCU contestやBINGO大会、縁日などの来場者参加型の企画や、受験生向けの学校説明会やキャンパスツアー、さらに地域の方々が参加するフリーマーケットなど、来場者の方々が祭に参加し、非日常の世界を楽しめる浜大祭をお届けいたしました。

今年も浜大祭を無事に開催することができたのは、横浜市立大学の関係者の皆様、後援会や進交会・同窓会の皆様、また協賛・後援していただいた企業の皆様、地域のご支援・ご協力によるものです。心より感謝いたします。

浜大祭実行委員会 委員長 山口 佐久美

第61回 関東甲信越大学体育大会



平成24年8月15日(水)～9月6日(木)に、関東甲信越地区の大学から約3,500名が参加する「第61回関東甲信越大学体育大会」が開催されました。本年は群馬大学が主管校となり、他に山梨大学、都留文科大学、埼玉大学で行われ、本学からは男女あわせて187名が参加。日ごろの練習成果が出るよう全員で力を合わせて闘いました。

大会の規模が非常に大きいため、参加費や遠方の会場までの交通費を学生だけで負担することは難しく、後援会からの補助金をこれらに充てさせていただいています。大学の運動部全体の活動に対して毎年援助をしていただき大変感謝しております。

来年度の大会は本学が主管校となって、南関東を中心に開催される予定です。これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。 運動部連合会 関甲信担当 市川 和樹

フットサル部

私たちフットサル部は大学の体育館や横浜市内のスポーツセンターなどを利用し活動を行っています。フットサル部は毎年開催される全日本大学フットサル選手権大会の全国大会出場が目標でした。昨年は県大会で優勝しましたが関東大会の準決勝で敗れ関東大会3位となり全国大会出場を逃しました。この悔しさを忘れずに一年間練習に励み、今年は県大会、関東大会を勝ち抜き全国大会出場権を獲得しました。



後援会支援

★課外活動団体への補助金
★備品購入のための特別補助

★浜大祭やYMF (医学部大学祭) 開催補助
★関東甲信越体育大会・首都大戦・東西戦などの大会補助

8月31日から9月2日に開催された全国大会に出場し、チーム一丸となり闘いましたがグループリーグ敗退という結果に終わってしまいました。まだ私たちには全国大会で勝ち抜く力が備わっていないということ、そして今まで以上に厳しい練習を行い、努力しなければ勝てないということを感じました。来年からは全国大会出場権を獲得することだけでなく、全国ベスト4進出という目標を新たに掲げ日々の練習に取り組んでいきます。

フットサル部 主将 荒井 拓郎



弓道部

私たち横浜市立大学弓道部は創部50年以上の伝統のある部で、週3回本学弓道場にて練習を行っています。練習では全員がそれぞれ目標を持ち、その目標に向かって真剣に稽古しています。また、部全体でもリーグ戦や全関東等での勝利を目指し、チーム一丸となって部を盛り上げています。弓道場は八景キャンパス内にあり、自由に稽古することができるため、恵まれた環境にあります。

今年の関東甲信越大学体育大会では、男子準優勝、女子第3位という好成績を収めることができました。これも大学関係者の皆様、OBの先輩方の温かいご声援、ご協力を頂いているおかげです。今後もよい成績を残せるように日々精進してまいりますので、変わらぬご支援、ご声援よろしくお願いいたします。弓道部 主将 川井 一紀

ダンス部ALMA

私たちダンス部ALMAは1999年に発足した文化部連合会所属団体です。現在、総勢125名と大学内でも最大級の団体です。経験者もいますが、大学から始める部員が大半で、誰でも気軽に入部できます。同期はもちろん先輩後輩との仲も良く、楽しく活動しています！

例年、4月の新歓ステージ、7月の学外公演、11月の浜大祭をメインに活動しており、普段は学内の施設をお借りして、日々練習に励んでおります。

近年、ALMAは学外にも積極的に目を向け活動しております。7月の学外公演もその一貫で、多くの方々のご協力もあり今年の7月には第2回目の公演を迎えることが出来ました。

また、春と冬には横浜市大・横国大・関東学院大・神奈川大の4大学合同イベントを開催し、他大学との交流も深めています。

さらには、金沢八景を盛り上げるためにと学生中心で行われている八景祭への参加や今年から横浜市と連携を取り横浜を中心に幅広く活動させて頂いております。

これからもダンスパフォーマンスの向上はもちろん、学内活性化や地域貢献などにも力を入れ、活動範囲を広げて日々精進していきたいと思います。

YCU.dancing crew ALMA 14代目代表 太田 大地



セカンドウインドジャズオーケストラ

私たちセカンドウインドジャズオーケストラは、創立から43年を迎える、学内で唯一の学生ビッグバンドです。8月の山野ビッグバンドジャズコンテスト、12月の定期演奏会を2つの柱に、学内では他大学を招いて本大学で主催するシーガルライブ、学園祭、新歓ライブ、オープンキャンパスなどで演奏、他にも営業演奏や夏合宿、諸コンテストへの参加など、様々な活動をしています。



部で使用する楽器の維持費や定期演奏会の開催費用は、毎年部費では賄えない額になりますが、後援会からの補助金を充てさせていただくことで、活動を円滑に行うことができています。日頃の活動に際し、後援会をはじめ横浜市立大学の関係者の皆さま、地域の方々にはご支援、ご協力を賜り、部員一同心より感謝しております。今後も活動をさらに充実させ、楽しい演奏で地域を盛り上げられるよう努力してまいりますので、何卒ご支援のほどよろしくお願いいたします。

横浜市立大学セカンドウインドジャズオーケストラ 代表 近藤 邦彦

International

国際交流

グローバルな視野を持ち、世界で活躍する人材を育てるため、海外での様々な学びや経験の場を提供しています。学生が、より自分の目的・レベルに合ったプログラム選択ができるよう、幅広いプログラムの提供に努める中、平成23年夏から、米国セメスター留学プログラムによる1年間の米国大学への学部留学に、初めて学生を送り出しました。帰国したての学生の生の体験談をお届けします。

海外フィールドワーク 支援プログラム

コース等	参加者	主な渡航先
人間科学	20	メキシコ(グアダハラ)、アメリカ(ロサンゼルス)
国際文化創造	15	韓国(済州)
環境生命	5	チリ(サンティアゴ)
基盤科学	7	台湾(台北)
国際経営	21	タイ(バンコク)
	22	香港、中国(深圳)
	23	アメリカ(カリフォルニア州)
	16	台湾(高雄・台北)
	15	台湾(台北)
政策経営	29	韓国(済州)
	11	トルコ(イスタンブール・アンカラ)
ヨコハマ起業戦略	9	マレーシア(ペナン・クアラルンプール)
	19	スウェーデン(ストックホルム)、リトアニア(ヴィリニュス)
	8	ケニア(ナイロビ)、マラウイ(リロンゲ・ブランタイヤ)
共通教養	11	オーストラリア(ケアンズ)
	14	オーストリア(ウィーン)
医学科・看護学科	4	ブラジル(ポルトアレグレ)
看護学科	20	韓国(ソウル)
	4	ザンビア(ルサカ)
国際マネジメント専攻	12	台湾(台北)
ゲノムシステム科学専攻	10	ドイツ(デュッセルドルフ・ビーレフェルト)

国際ボランティア

夏休み期間中に、世界約30カ国、約800にわたるプロジェクトから自分の希望するプロジェクトを選び、参加するボランティアです。世界各国からの参加メンバーと協力して活動することができ、様々な考え方や価値観を共有することができます。このプログラムはTOEFLの日本事務局でもある国際教育交換協議会(CIEE)が提供しています。

H24派遣国実績: スペイン、ドイツ、トルコ、フィンランド、アイスランド、ウクライナ、カナダ、メキシコ、オーストラリア、ニュージーランド、ベトナム他

学生海外派遣プログラム

	23年度	24年度	プログラム名
語学研修(英語) 4週間	21	23	オックスフォード・ブルックス大学 夏期語学研修(イギリス)
	19	未定	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 春期アカデミックスキル研修(アメリカ)
	H24 新設	3	ディーキン大学 夏期語学研修(オーストラリア)
語学研修(中国語) 4週間	8	未定	上海市内大学語学研修 (中国)
夏期講座* *上級英語力を もって学部 授業を受講 5週間	1	0	カリフォルニア大学サンディエゴ校 (UCSD) 夏期講座(アメリカ)
長期派遣/交換留学 1セメスターまたは 1アカデミックイヤー	2 (H23夏 出発)	4 (H24夏 出発)	米国セメスター留学プログラム (アメリカ)
	3	1	上海師範大学交換留学/短期留学(中国)
	3	3	ウィーン大学交換留学(オーストリア)
	3	3	仁川大学校交換留学(韓国)

海外インターンシップ

学部2年生以上が、自分の専攻や将来のキャリアと関連した就業体験を海外で行います。

H24参加者

国・都市	参加者	実習先
アメリカ シアトル	1	Japan America Society (ICC 国際交流委員会提供プログラム)
アメリカ ロサンゼルス	2	OPCC、UTB (日本スタディ・アブロード・ファンデーション提供プログラム)
アメリカ サンフランシスコ	1	Sankei Travel (ICC 国際交流委員会提供プログラム)
アメリカ トーランス	3	Gyu-kaku USA, Nippon Shoseki Hanbai, Inc., Wing Mate (ライトハウス・キャリアエンカレッジ提供プログラム)
アメリカ サンディエゴ	1	Japan Society of San Diego and Tijuana
	1	World Trade Center San Diego
アメリカ モンタナ	1	グレイシャー国立公園 (Intrax 提供プログラム)
オーストラリア ブリスベン	1	BrisbaneMarriott Hotel (ICC 国際交流委員会提供プログラム)
インド ムンバイ	2	Cactus Communications Pvt. Ltd.
インド プネ	5	Symbiosis International University, World Wide Infosoft Services, Fidel Softec (ソフトブリッジグローバルスタディーズ提供プログラム)
シンガポール	1	NEC Asia Pacific Pte. Ltd.

後援会支援

★海外研修プログラム渡航費補助

「海外フィールドワーク」・「海外留学・語学研修」・「海外インターンシップ」・「海外ボランティア」・「国際学会参加」

学生海外派遣プログラム

米国セメスター留学

国際文化創造コース 4年 高田 茉奈



ルームメイトと図書館で撮りました

日本での論文にも励んでいこうと思います。このような貴重な経験をさせていただき、支えてくれた周囲の方々に感謝したいです。

大学生活の中で、留学中が最も密度の濃い1年になりました。学習面で、私は発言力の向上と論文の英語執筆を主な目標にしていました。始めは英語力の欠如・聞き取り困難による内容理解の遅れや不足などにより、質問を考えることができませんでした。また、質問があっても躊躇し、授業終了後に質問していました。しかし、一人の先生の励ましのおかげで、徐々にこの姿勢を改善していくことができました。開放的で自由な発言が飛び交う空間の中、議論へ参加出来たらより充実したと思いますが、学部授業聴講により、見方や知識が広がり今後の学習へつながれるものとなりました。論文執筆については、英語の文献を読み理解し、英語で書き終え、最後はとても達成感がありました。これをもとに、

上海師範大学短期(半期)留学

国際文化創造コース 3年 高木 瑞香



あっせんしてもらい、互いに語学学習の手助けをし合うものです。このような機会を通じて学習できるのはこの大学ならではの感じました。

今回の留学を通じて、中国語能力はかなり伸びたと思います。今後も自主的な学習を続け、留学中に学び得た経験を卒業論文作成や市大生との体験共有に活かしたいと思います。

上海は国際都市ということで国際色豊かで、中国内外から多くの人々が集まり、色々な文化に触れられるのが特徴だと感じました。私が留学した上海師範大学でも、近年、インドネシア人や韓国人の留学生が増えているといわれています。

授業は初級から高級、ビジネス、強化班にまで分かれており、1クラス20人ほどで構成されます。また、日本語学科もあるため日本語を学ぶ中国人学生も多いのですが、そこで学習の手助けになるのが「相互学習」でした。相互学習とは、留学生センターへの登録を通じて現地の学生を

海外フィールドワーク支援プログラム

政策経営コース 2年 和田 英明



今回の韓国・済州島へのフィールドワークを通して、済州島や韓国という国自体に対して抱いていたイメージが大きく変わった。済州島というと韓国内外の人が多く訪れる観光地の印象しか抱いていなかった。しかし今回訪問した済州道庁では、済州が2006年に特別自治道としての認可を受け、国防や外交などの一部の分野を除いたほとんどの分野での自治権を確保していることや、投資家への租税減免や一定の基準をクリアしている外国人投資家に対し、長期滞在の許容などの特例を設けるなど、国内外を問わず積極的に投資を集めていることもわかり、新たな発見をすることができた。

済州先端科学技術団地へ訪問した際には科学技術発展の基盤となる施設を計画的に設計しているお話も伺うことができ、済州大

学では教育にも大きな力を注いでいることを知ることができた。これらは実際に訪問しなければなかなか知ることができないことだと思うので今回のフィールドワーク参加はとても良い経験になった。

また、今回のフィールドワークは、領土問題で日韓の関係が良いとは言えない時期の訪問になった。反日運動の様子などがメディアで放映されていたため、渡航前には不安もあったが、実際に活動した5日間では反日的な扱いを受けたことは一度もなく、どの方々もとても親切に接して下さった。メディアから情報を得ることも大切だが、それを鵜呑みにせず、実際に自身で体感していくことも大切だと感じた。

海外インターンシップ

政策経営コース 4年 大窪 悠



この夏休み、約一ヶ月間アメリカのロサンゼルスでインターンシップに参加しました。海外という厳しい環境で自分を成長させたいという強い気持ちが参加に繋がり、目標は十二分に達成できました。

私の実習先は、アメリカで全国チェーンを展開する日系の外食産業の企業でした。実習を通して「自身のデータを数値化されるビジネスとしての厳しさ」、「組織を支える役割分担というチームワーク」、「一つ一つのアクションや判断を効率的に考え続ける大切さ」を強く感じる事ができました。また実際に仕事をさせて頂く傍ら、「仕事とは」という事を色々なツールを利用して叩き込んでもらいました。ストイックに仕事を全うし、豪快に日々を楽しみ、そして本当に温かい気持ちを持つ社員の方々から社会に出る心構え・楽しみを教えて頂きました。

また、ホストファミリーと過ごした時間も決して忘れることは出来ません。異国の見知らぬ自分にベストな体験・生活が出来る様、コミュニケーションやサポートなど本当に尽力して頂きました。

このような素晴らしい体験を支援してくださった横浜市立大学後援会の皆様はじめ、いつも支えて下さる方々に心より感謝申し上げます。

国際ボランティア

ヨコハマ起業戦略コース 2年 中島 明香



今でも鮮明に思い出すことができ、今後忘れることのない「10代最後の夏」。私は高校時代から憧れていたトルコへと発ち、国際ボランティアを経験してきました。

現地では世界から集まってきた18~38歳の25人と英語で共同生活を送り、当番制で食事を作ったり、掃除をしたりと16日間家族のように過ごしました。活動内容はビーチ周辺と道路の中央分離帯における花壇の形成、および花を植える作業でした。活動は思ったよりも重労働で、45度の炎天下の中での作業はとても楽とは言えませんでした。仲間と励ましあい、助け合う日々、嫌気がさすことは一度たりともありませんでした。一日の仕事の後は、毎日のようにビーチに行き、日が沈むまで仲間と語り合いました。週末には遺跡に行ったり、遊覧船にのったり、湖に行ったりと、活動だけでなく観光も兼ねた有意義な時間を過ごしました。

ボランティア活動の中で、素晴らしい仲間に出会い、素晴らしい時間を過ごせた事は、私の人生での大きな自信につながったと確信しています。

最後になりましたが、助成金含め様々なサポートを後援会からいただき、憧れの地トルコを身近に感じさせていただけたことを感謝しております。

アカデミックコンソーシアム事業

2012年9月に第3回アカデミックコンソーシアム(※)総会及び国際シンポジウムをタイのタマサート大学で開催し、3つのユニットである「環境」「まちづくり」「公衆衛生」それぞれの分野から持続可能な都市の在り方について、活発な議論がなされました。この国際シンポジウムでは「環境」「まちづくり」ユニットの市大生24名も参加し、国際学生ワークショップ、学生フィールドワークを通じ、タマサート大学学生と交流する等、アジアを中心とした海外大学との交流が進んでいます。

主な活動として、「まちづくり」ユニットの学生は、『バンコク市内の歴史地区における活性化のための100のアイデアカードの作成及び地元コミュニティへの発表』、また「環境」ユニットの学生は、『環境関連施設の視察及び各国の環境政策に関する学生ワークショップ』等を行いました。国際シンポジウムの会場では学生がポスタープレゼンテーションとしてこれらの活動を報告し、来場者に英語で積極的に活動内容を説明する等、学生にとっての海外での学び・実践の良い機会となっています。

次年度の第4回アカデミックコンソーシアム総会及び国際シンポジウムはフィリピン大学での開催が決定しており、今後もアカデミックコンソーシアムの活動を拡充していきます。

※アカデミックコンソーシアムは、アジアを中心とした大学間ネットワークであり、各都市、国際機関などと協働しながら、都市が抱える問題の解決に向け取り組んでいます。



第3回総会・国際シンポジウム

Career Support

キャリア支援

「豊かな教養と専門能力を兼ね備え、国内のみならず世界の第一線で活躍できる人材を育成する」ことを目標に掲げ、個々の学生のキャリア・就職支援に積極的に取り組んでいます。

学生は、キャリア・就職に関する相談はもちろん、企業情報、OB・OG情報、就職関連書籍など役立つ情報を得ることができます。また、就職ガイダンス、公務員講座や合同企業説明会など、就職活動支援に関する講座やさまざまなイベントに参加することができます。さらにキャリアアップを図るための資格取得支援制度や単位認定科目である国内・海外インターンシッププログラム、そして1年次から参加できる国際ボランティアプログラムなど、グローバルな視野を身につけるための幅広いキャリア支援を受けることができます。また、平成24年度からは、早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を1、2年次生対象に実施します。これにより、学生は入学直後から卒業まで体系的なキャリア支援を受けることができます。

キャリア・就職支援の主な取り組み

キャリア・就職相談

専任のキャリア・コンサルタントを配置し、キャリア形成に関する相談から履歴書やエントリーシートの書き方、模擬面接まで相談に応じています。



就職支援講座・イベント

合同企業セミナーや就職ガイダンス、公務員講座など各種就職支援講座を随時開催しています。

低学年次対象キャリア支援講座

学部の1、2年生を対象に、早期に正しい勤労観・職業観を身につけ、社会人基礎力を養うためのキャリア支援講座を実施しています。

インターンシップ

民間企業から官公庁まで幅広い分野で、国内外問わず就業体験する場を提供しています。学生への海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。
※2年次以上対象

国際ボランティア

世界約30カ国800にわたるプロジェクトから、希望するプロジェクトを選び、夏休み期間中に2～3週間にわたり参加するボランティアプログラムを提供しています。学年問わず参加可能です。学生の海外渡航費用の一部を後援会より助成いただいています。

キャリアサポーター制度



キャリアサポーターとは、在校生の就職支援を行うOB・OGです。学生が直接連絡をとり相談ができ、現在約500名の方に登録いただいています。毎年「キャリアサポーターと学生の集い」を開催し、在校生の就職支援を行っています。開催費用を後援会より助成いただいています。

キャリアメンター制度

就職が内定した学部4年生／修士2年生が自己の経験をもとに、学部3年生／修士1年生に対して相談・指導する制度です。

資格取得支援制度

TOEFL、TOEIC、各種語学検定、簿記等をはじめとした資格を取得した学生に、受講料の半額を助成、さらに一定レベルを超えた学生には報奨金を助成する制度です。後援会より助成いただいています。

書籍・DSソフトの貸出し

キャリア、業界・職種研究等キャリアに関する書籍やビジネス誌、資格対策のDSソフト等を学生に貸出ししています。書籍やソフト購入の一部は後援会より助成いただいています。

キャリア・ネットポータル

本学学生専用のWEBサイトです。イベント予約やOB・OG情報、求人票の閲覧、インターンシップ情報等オンライン上でキャリア支援を行います。

後援会支援

- ★「文章講座」等就職支援講座助成
- ★「キャリアサポーター」「キャリアメンター」制度助成

- ★資格取得受験料補助・報奨金
- ★雑誌・書籍など就職関連助成

入学から卒業までの支援の流れ

支援内容	1 年	2 年	3 年	4 年
キャリア	新入生オリエンテーション			進路報告
	キャリアデザイン実習			
	低学年次対象キャリア支援講座 キャリアデザインセミナー			
	キャリア面談		就職・進路相談	
		DS・書籍貸出し		
		キャリア・ネットポータルの活用		
就職			就職ガイダンス	
			合同企業セミナー	
			キャリアメンター制度	
			キャリアサポーターとの集い	
資格取得			OB・OG 訪問（キャリアサポーター制度）	
			公務員講座	
課外活動		後援会による資格取得助成制度		
		国内・海外インターンシップ		
		国際ボランティア		

資格取得

環境生命コース4年 本島 ゆか



私が助成して頂いた資格は英検準1級とTOEICです。助成して頂いたことで受験費用をカバーできるだけでなく、報奨金で次の勉強に投資することも可能になりました。当時掲げた目標はコミュニケーションスキルを磨くことで、資格取得がゴールではありませんでした。ただ、資格を取得したことで就職活動の際に評価して頂いたことはもちろん、モチベーションの維持に繋がりました。来春からは外資系企業で働くので、学生時代の勉強を振り返りながら、継続して英語以外の知識も吸収したいと思います。

資格は力ではなく努力の証です。そしてこの大学はそれを評価し、サポートする体制が整っています。学生のみならずには最大限に活用して欲しいと思います。最後にこの場をお借りして後援会の皆様から感謝を申し上げます。

就職支援セミナー

生命ナノシステム科学研究科生体超分子システム科学専攻
博士前期課程1年 蜂須賀 雅美

横浜市立大学では様々な就職活動に関するセミナーが開催されています。その中でも、ポストドク経験を経て、現在は研究者の転職支援を行っている方によるセミナーは、非常に役立ったと感じています。理系学生は進学か就職かの選択に悩む経験があると思います。自分ひとりで進路を考えると、一つの側面についてばかり考えてしまいがちです。そのようなときに、実体験をもとに自己分析法やキャリアの一例の提案、そしてアドバイスをしてくださる存在は非常に心強いものです。さらに横浜市立大学ではキャリアサポーターという制度があり、OB、OGとの懇談会が開かれます。人生には様々な選択肢があり、私たち学生が直面する就職か進学というものは、その一つに過ぎません。多くの方の話に耳を傾けて、目の前の選択肢だけにとらわれず、広い視野をもって情報を集めることが重要ではないでしょうか。皆さんも後援会のキャリア支援事業を有効活用し、目標に向かって頑張ってください。

卒業生進路

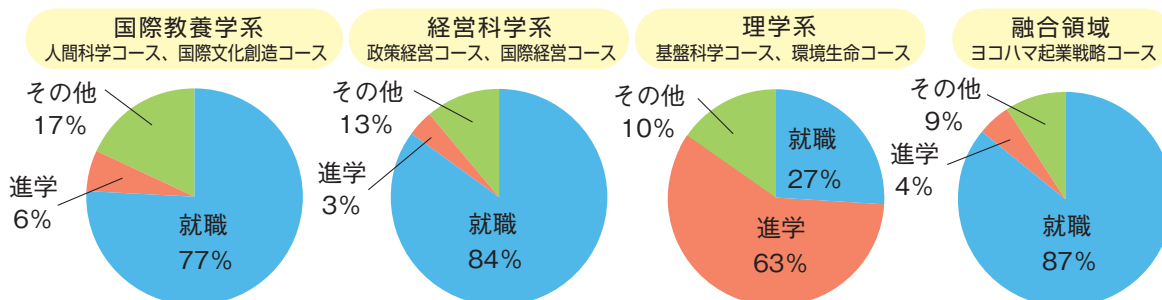
就職をはじめ、大学院への進学や留学、資格取得の専門学校へ通うなど、卒業後の進路は様々です。経営科学系や国際教養学系、融合領域など文系の学生は80%以上が就職を希望し、就職内定率は例年90%を超えています。理学系では60%以上の学生が進学し、就職する学生は30%弱にとどまっています。就職先は、製造、金融、情報通信の3業種でほぼ半数を占め、公務員がそれに続いています。こういった業種に限らず、卒業生は様々な業界、職場で高い評価を受けています。また、横浜市役所や横浜銀行など、横浜市内で働くことを希望する学生も多く、地域社会への貢献に力を注いでいます。

◆国際総合科学部 卒業生進路状況（平成24年5月1日現在）

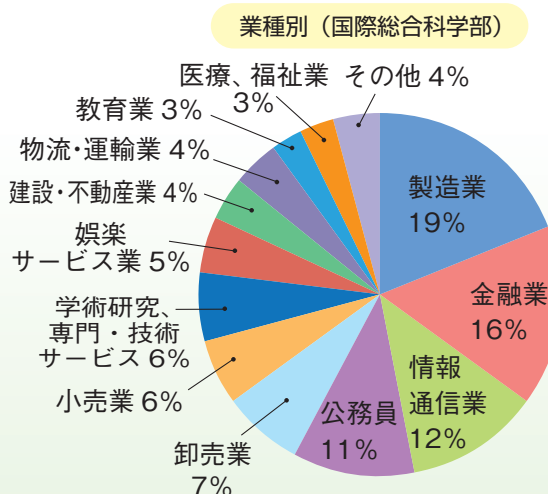
学科名	人間科学コース			国際文化創造コース			政策経営コース			国際経営コース			基盤科学コース			環境生命コース			ヨコハマ起業戦略コース			
就職率	95.8%			96.3%			91.1%			95.1%			90.0%			94.7%			97.4%			
進路	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	就職	進学	その他	合計
男	16	5	4	26	2	6	42	1	7	113	7	17	8	21	4	9	15	1	39	2	3	348
女	53	3	12	51	2	9	30	0	5	82	2	12	1	4	3	9	23	2	35	1	5	344
男女計	69	8	16	77	4	15	72	1	12	195	9	29	9	25	7	18	38	3	74	3	8	692

※その他：留学、資格取得など

※就職率：就職者÷就職希望者数



No.	業 種	人 数
1	製造業	97
2	金融業	80
3	情報通信業	64
4	公務員	58
5	卸売業	38
6	小売業	33
7	学術研究、専門・技術サービス	29
8	娯楽、サービス業	24
9	建設・不動産業	22
10	物流・運輸業	19
11	教育業	17
12	医療・福祉業	13
13	その他	20



主な就職先
横浜市役所
株式会社横浜銀行
横浜市教育委員会
神奈川県庁
全日本空輸株式会社
株式会社三菱東京 UFJ 銀行
みずほフィナンシャルグループ
伊藤忠商事株式会社
株式会社資生堂
武田薬品工業株式会社
TOTO 株式会社
KDDI 株式会社
株式会社日立ソリューションズ

主な進学先
横浜市立大学大学院
東京大学大学院
東京工業大学大学院
京都大学大学院
一橋大学大学院
筑波大学大学院
横浜国立大学大学院
国際教養大学大学院
早稲田大学大学院
慶応義塾大学大学院

Topics

八景キャンパス耐震対策整備事業について

未来に向けたキャンパス環境づくり

八景キャンパスの本校舎（昭和38年竣工）、文科系研究棟（昭和53年竣工）、付属校舎（昭和33年竣工）及び理科館（昭和45年竣工）は、建築基準法の耐震基準が改正された昭和56年以前に建設されたために、耐震性能が不足しています。

地震に対してより安全なキャンパスにするために、本校舎、文科系研究棟については耐震補強、理科館、付属校舎については建て替えを行います。

本整備事業は、今年度の新理科館建設工事から始めて、平成27年度末までに順次実施します。耐震対策整備に併せて、教室、学生スペースの整備、空調設備更新や外構を整備します。

特に、現在設計を進めている付属校舎については、教室だけでなく、自主的研究活動の場所としてstudent office（仮称）、研究活動の発表の場として presentation gallery（仮称）などを整備します。また、デザイン面でも、大学の新しい顔、八景キャンパスのランドマークとなるよう整備を進めます。

今後しばらくの間、学内で工事が続きますが、安全面で万全を期すとともに、学習・研究への影響を極力少なくするよう努めますので、ご理解・ご協力をお願いいたします。

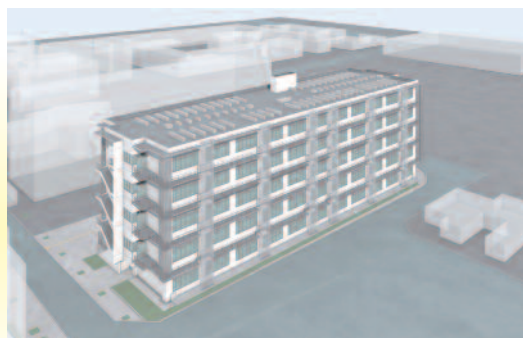
新理科館建設工事

工期

平成24年10月～平成26年2月（17か月）

概要

鉄筋コンクリート造 地上5階建
建築面積 1,508.60㎡
延床面積 6,502.73㎡
高さ 23.20m



外観パース（色など一部変更することがあります。）

新付属校舎建設工事

工期（予定）

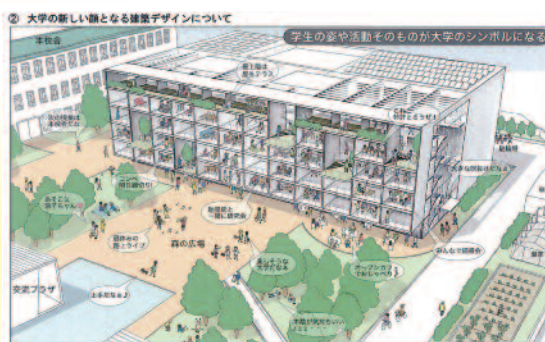
平成26年8月～平成27年12月

現在、基本設計を作成中です。

平成24年度：基本設計

平成25年度：実施設計

参考：計画延床面積 3,918㎡



設計事務所の提案イメージ

文科系研究棟耐震補強工事

工期（予定）

平成26年4月～平成26年11月

現在、実施設計を作成中です。

次の方法などにより補強します。

- ・外壁側の柱・梁を鉄骨ブレースで補強
- ・廊下側の柱を鋼板巻で補強

本校舎耐震補強工事

工期（予定）

平成26年12月～平成27年12月

現在、実施設計を作成中です。

次の方法などにより補強します。

- ・壁の作り替え、厚さを増す
- ・柱・梁を鉄骨ブレースで補強

平成23年度決算 <H23.04.01~H24.03.31>

【一般会計】

収支計算書 H23年4月1日からH24年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
【収入の部】			
会 費 収 入 (1)	41,325,000	42,250,000	925,000
会 費 収 入 (2)	3,000,000	3,043,790	43,790
雑 収 入	50,000	130,059	80,059
当期収入合計(A)	44,375,000	45,423,849	1,048,849
繰越収支差額	11,683,475	11,683,475	0
収入合計(B)	56,058,475	57,107,324	1,048,849
【支出の部】			
事業費	43,280,000	41,359,550	△1,920,450
学 生 活 動 助 成 費	7,030,000	6,011,028	△1,018,972
学 習 助 成 費	13,250,000	13,628,550	378,550
キャリア支援費	3,860,000	3,186,397	△673,603
海外研修支援費	13,760,000	13,148,135	△611,865
研究活動支援費	300,000	193,005	△106,995
福利厚生費	2,580,000	2,487,833	△92,167
広報誌発行	2,480,000	2,704,602	224,602
ホームページ	20,000	0	△20,000
運営費	3,500,000	3,555,902	55,902
会 議 費	600,000	751,682	151,682
通 信 費	500,000	476,610	△23,390
事務局費	2,400,000	2,327,610	△72,390
積立金	5,000,000	5,000,000	0
繰り出し金(教育設備)	5,000,000	5,000,000	0
当期支出合計(C)	51,780,000	49,915,452	△1,864,548
当期収支差額(A)-(C)	△7,405,000	△4,491,603	2,913,397
次期繰越収支差額(B)-(C)	4,278,475	7,191,872	2,913,397

貸借対照表 平成24年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	7,191,872
流 動 資 産 合 計	7,191,872
資 産 合 計	7,191,872
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	7,191,872
(うち当期正味財産減少額)	(△4,491,603)
負債及び正味財産合計	7,191,872

監査報告書

公立大学法人横浜市立大学後援会会則、第8条(7)の規定により、平成23年度事業報告並びに決算書類を監査した。
その結果は、事業報告は妥当であり、その会計処理は財産及び収支の状況を正しく表示していると認める。

平成24年6月7日

監事:大村守一・渥美朋子

【教育設備資金特別会計】

収支計算書 H23年4月1日からH24年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	15,000	8,103	△6,897
繰 入 金 収 入	5,000,000	5,000,000	0
当期収入合計(A)	5,015,000	5,008,103	△6,897
繰越収支差額	33,669,131	33,669,131	0
収入合計(B)	38,684,131	38,677,234	△6,897
【支出の部】			
教 育 環 境 整 備	6,500,000	5,989,620	△510,380
当期支出合計(C)	6,500,000	5,989,620	△510,380
当期収支差額(A)-(C)	△1,485,000	△981,517	503,483
次期繰越収支差額(B)-(C)	32,184,131	32,687,614	503,483

貸借対照表 平成24年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	32,687,614
流 動 資 産 合 計	32,687,614
資 産 合 計	32,687,614
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	32,687,614
(うち当期正味財産減少額)	(△981,517)
負債及び正味財産合計	32,687,614

【教育資金特別会計】

収支計算書 H23年4月1日からH24年3月31日まで (単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	差 異
【収入の部】			
受 取 利 息 収 入	10,000	4,588	△5,412
当期収入合計(A)	10,000	4,588	△5,412
繰越収支差額	19,059,918	19,059,918	0
収入合計(B)	19,069,918	19,064,506	△5,412
【支出の部】			
生 活 環 境 整 備	5,000,000	4,636,042	△363,958
当期支出合計(C)	5,000,000	4,636,042	△363,958
当期収支差額(A)-(C)	△4,990,000	△4,631,454	358,546
次期繰越収支差額(B)-(C)	14,069,918	14,428,464	358,546

貸借対照表 平成24年3月31日現在 (単位:円)

科 目	金 額
【資産の部】	
流 動 資 産	
現 金 預 金	14,428,464
流 動 資 産 合 計	14,428,464
資 産 合 計	14,428,464
【負債の部】	
流 動 負 債	
【正味財産の部】	
正 味 財 産	14,428,464
(うち当期正味財産減少額)	(△4,631,454)
負債及び正味財産合計	14,428,464

公立大学法人横浜市立大学後援会会則

(名 称)

第1条 本会は公立大学法人横浜市立大学後援会と称する。

(目的及び事業)

第2条 本会は横浜市立大学の教育研究事業および学生生活の支援等を行うことを目的とする。

第3条 本会は第2条に定める目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 学生の教育研究活動への助成
- (2) 学生の学業、課外活動および福利厚生事業に対する助成
- (3) 学生の国際交流事業に対する支援
- (4) 学生教育に関する講演会・研究会等の開催
- (5) その他目的達成に必要と認められる事業

(会員及び役員等)

第4条 本会は次の会員をもって構成する。

- (1) 横浜市立大学に在学する学生(医学部2年次以上及び医学研究科を除く)の保護者または学生本人(以下「1号会員」という)
- (2) 横浜市立大学の卒業生及び教職員並びに退職者で本会の事業を支援する者(以下「2号会員」という)
- (3) 本会の事業を賛助する者(以下「3号会員」という)

第5条 本会に次の役員を置く。

- (1) 会 長 1名
- (2) 副 会 長 2名
- (3) 常務理事 1名
- (4) 会計理事 1名
- (5) 理 事 30名以内
- (6) 幹 事 5名以内
- (7) 監 事 2名以内
- (8) 顧 問 若干名

(役員の選出)

第6条 前条に定める役員のうち、会長、副会長、常務理事、会計理事は、理事の互選により選出する。理事、幹事、監事は会員のの中から理事会の承認を得て、会長が委嘱する。

第7条 役員の任期は4年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任者は前任者の残任期間とする。

第8条 役員の任務は次のとおりとする。

- (1) 会長は、本会を代表し、業務を総理する。
- (2) 副会長は、会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行する。
- (3) 常務理事は会長、副会長を補佐し、本会の一般業務を掌理する。
- (4) 会計理事は、本会の会計を処理する。
- (5) 理事は、本会の業務運営について審議する。
- (6) 幹事は、本会の一般業務を処理する。
- (7) 監事は、本会の業務および会計を監査する。

第9条 本会は大学との連絡を密にするため顧問を若干名置くことができる。

2. 顧問は、理事会の承認を得て会長が委嘱する。
3. 顧問は、会長の諮問に応じるとともに会長の求めにより理事会に出席して意見を述べるができる。

第10条 本会の事務を処理するために書記等の職員を置く。

2. 職員は、理事会の承認を得て会長が委嘱し、有給とする。

(会議等)

第11条 本会の会議は、総会および理事会とする。

2. 総会および理事会の議長は、会長をもって充てる。

第12条 総会は、第4条に規定する会員の出席により年1回開催し、事業報告、事業計画、予算、決算、役員の選任及びその他本会の運営に関し必要と認められる事項について審議する。

2. 会長は必要と認めるときは、臨時総会を開催することができる。
3. 総会は、出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

第13条 理事会は、第5条に掲げる役員をもって構成する。

2. 会長は必要と認めるとき理事会を開催する。

第14条 理事会は、事業計画(案)、予算(案)、決算(案)及び会の運営に必要な事項につき審議する。

第15条 理事会は、理事の半数以上の出席で成立する。ただし、出席できない場合は、委任状をもってこれに代えることができる。

2. 理事会の議事は出席者の過半数をもって決定し、可否同数の場合は議長が決定する。

(会 計)

第16条 本会の経費は、会費、寄付金、その他の収入をもってこれに充てる。

第17条 本会の会員の会費は、次のとおりとする。なお、既納の会費は返還しない。

(1) 1号会員

学部においては学生1人につき、50,000円(但し医学部1年次生については15,000円)

大学院博士前期課程および博士後期課程においては院生1人につき、30,000円(但し博士前期課程より博士後期課程に進学した者にあっては20,000円とする)

(2) 2号会員 年会費3,000円以上(1口1,000円、3口以上)

(3) 3号会員 年会費5,000円以上

2. 1号会員は、学生(院生)の入学時に会費を納めるものとし、2号及び3号の者は毎年、年度内に納めるものとする。
3. 2号会員並びに3号会員が、前項の定める会費を年度内に納めない時は、その資格を失う。

第18条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第19条 この会則の改正は、総会で行う。ただし、改正を議決するには、出席者の三分の二以上の賛成を必要とする。

附則

1. 本会則は、平成17年4月1日から施行する。
2. 平成17年4月1日現在、会員である学生の保護者は、当該学生が卒業するまでの間は、会員とする。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成19年6月2日から施行する。

附則

(施行期日)

1. 本会則は、平成22年6月26日から施行する。

事務局より

2006年に後援会活動をお知らせするための小さなNews Letterを発行してから、早いもので7回目となりました。編集にあたり、なるべく多くの学生の声をお伝えするように心がけました。部活動報告や、留学体験などを通じて後援会活動をご理解いただければ幸いです。

会員の皆さまにおかれましては、横浜市立大学生の有意義な学生生活支援の為、今後とも変わらぬ協力をいただきたくお願い申し上げます。

公立大学法人横浜市立大学後援会事務局

〒236-0027 横浜市金沢区瀬戸22-2 横浜市立大学内

TEL: 045(787)2396 e-mail: kouenkai@yokohama-cu.ac.jp

URL: <http://www-user.yokohama-cu.ac.jp/~kouenkai/>